

広沢小だより

<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/hirosawa-s/>

3月臨時号
平成29年3月16日
京都市立広沢小学校
校長 小林 五月

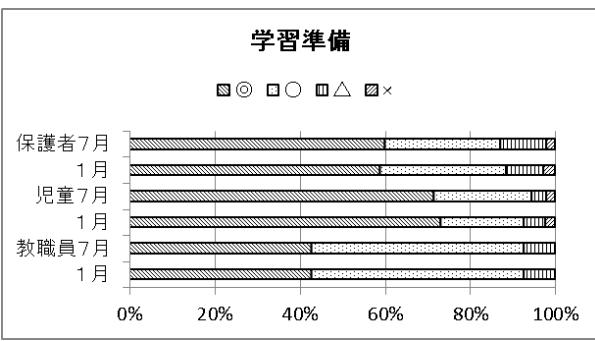
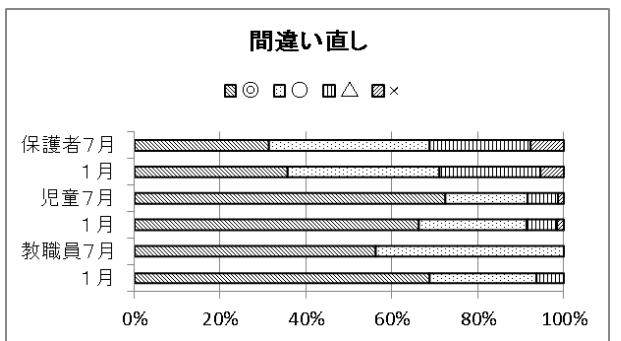
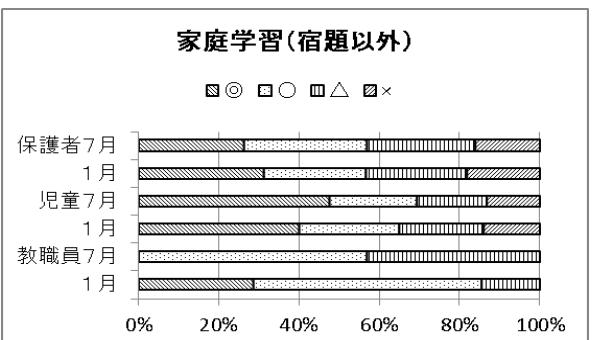
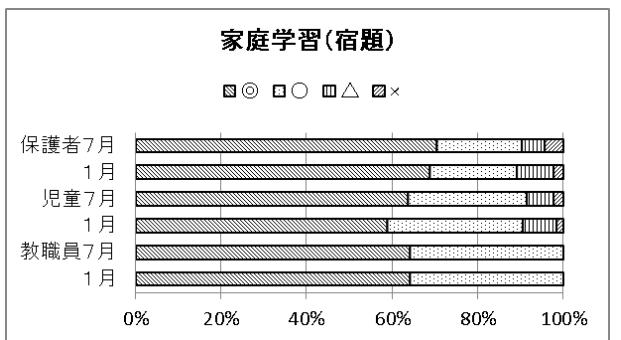
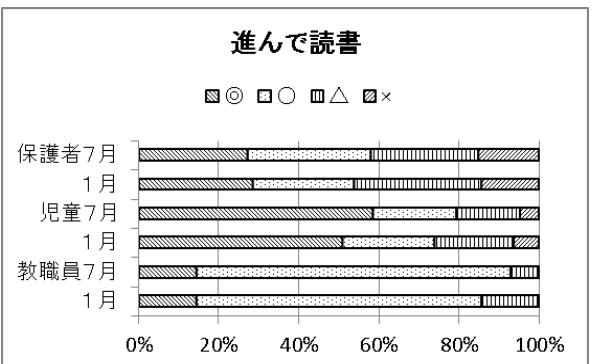
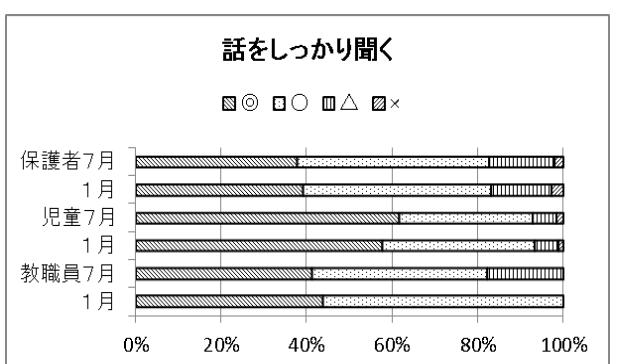
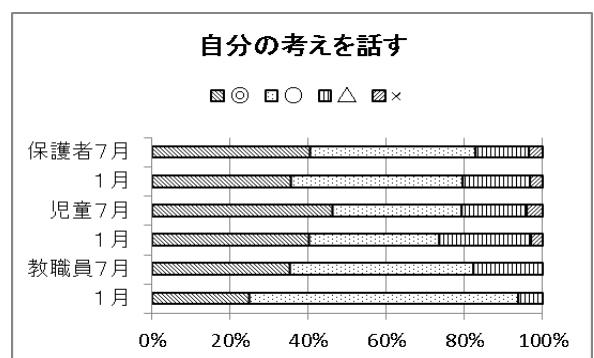
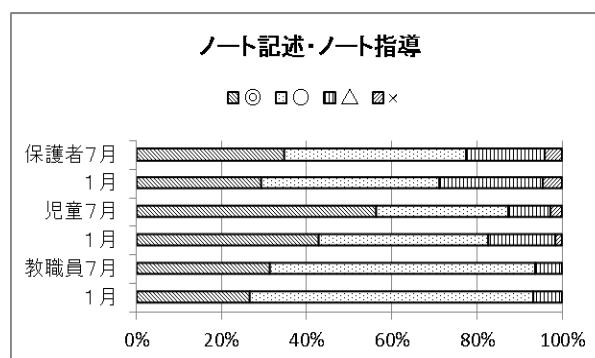
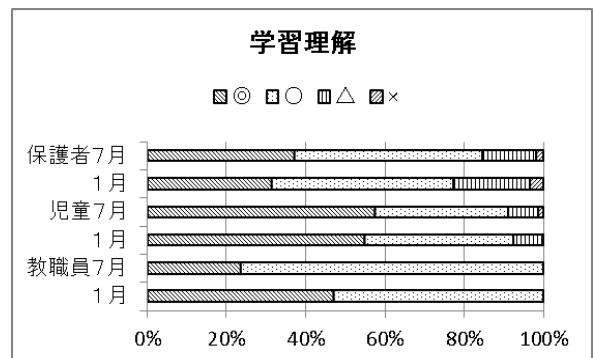
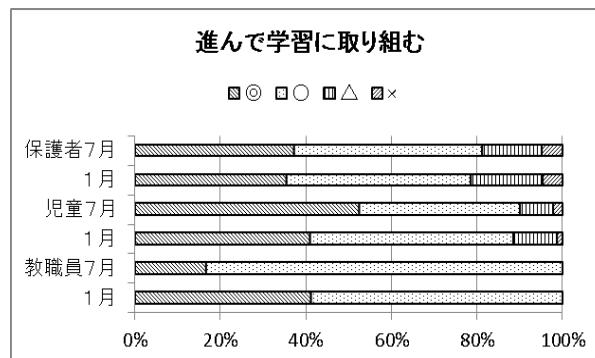
TEL 881-4978 FAX 881-4947

広沢小学校では、毎年2回、保護者の皆様・児童・教職員による「学校評価アンケート」を実施しております。第2回（後期）学校評価の結果がまとまりましたので、報告させていただきます。

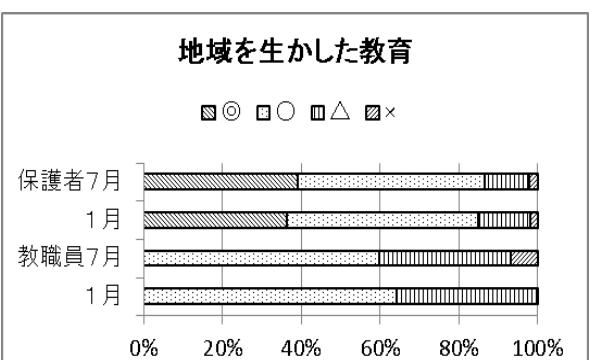
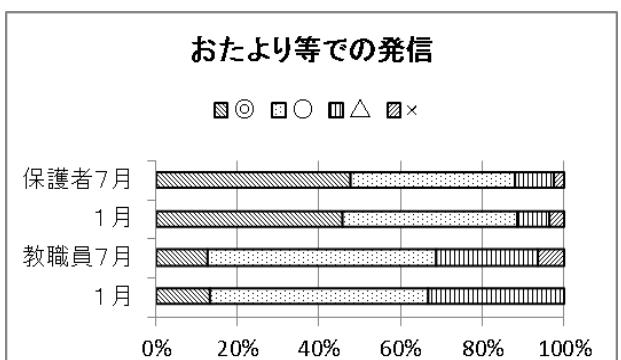
保護者の方には「ご家庭で大切にされていること」についてもご回答いただきましたが、主にお子様の実現度を答えていただいている。また、児童は自分自身のふり返りを、教職員は自分自身がどれだけの指導をしているかのふり返りをしています。グラフにして並べることで、3者の比較ができると思います。また、今回は前回7月の結果と並べてグラフに表しました。半年間の変化が分かると思います。

グラフについては、全て棒の左から○（よくできている）、○（大体できている）、△（あまりできていない）、×（できていない）の評価で表しています。

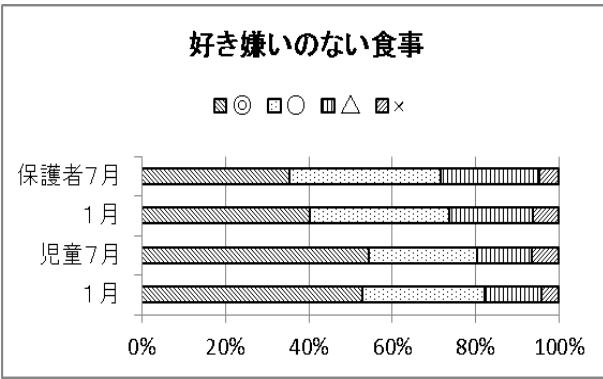
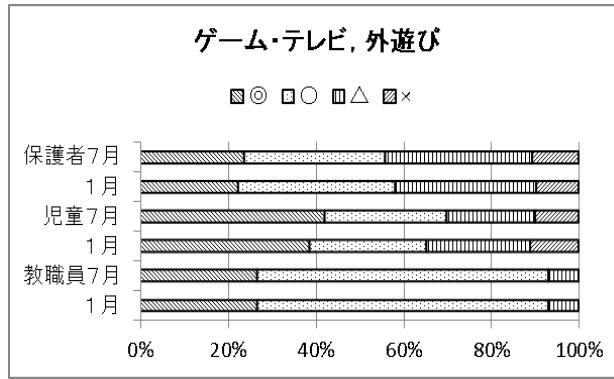
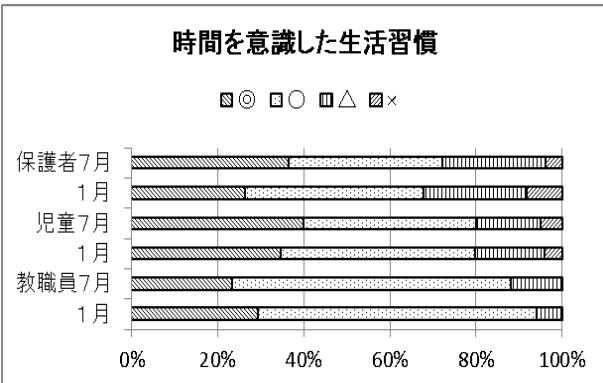
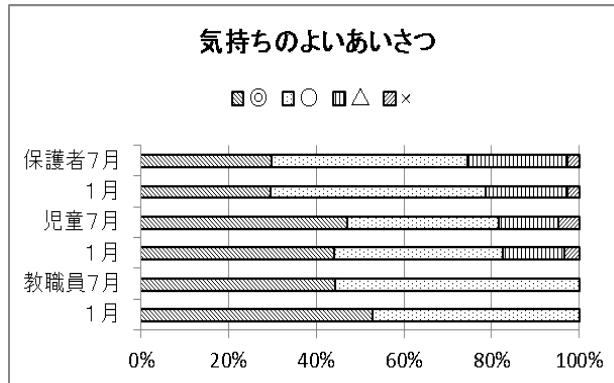
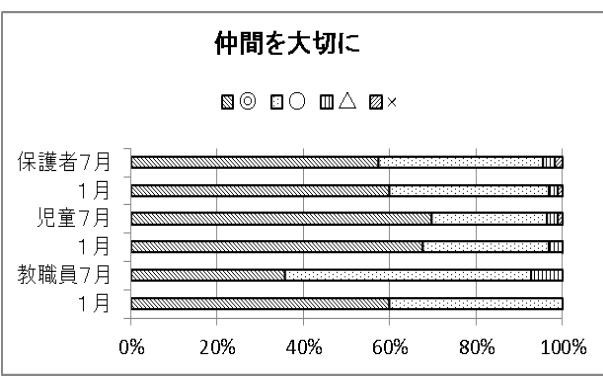
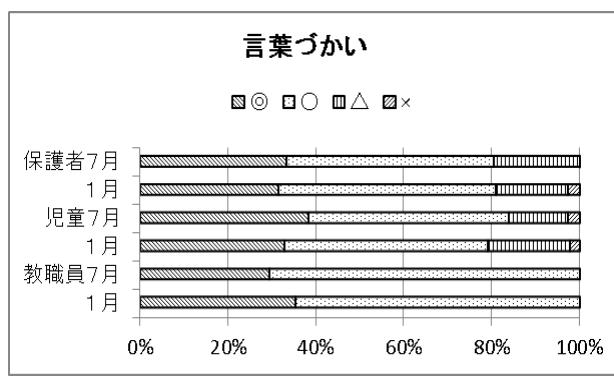
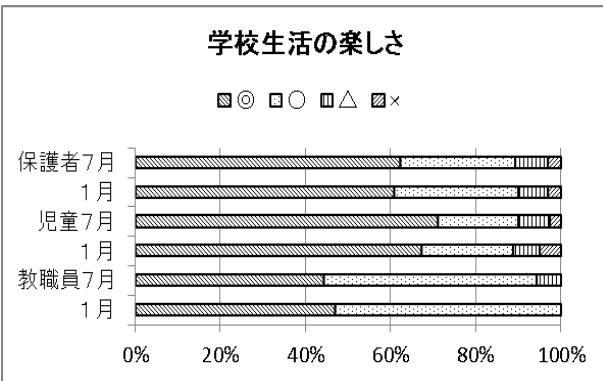
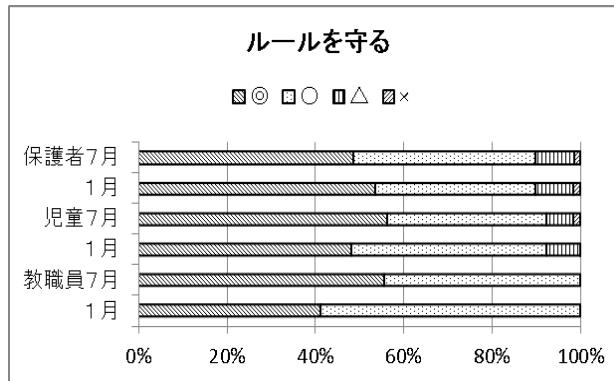
学習について



学校の様子



学校生活について・健康的な生活について



結果と考察

どの項目においても、7月の結果とは大きな変化は見られませんでした。むしろ、保護者と児童の評価については、7月よりもプラス評価（○, □）の割合が低くなっているのが多かったです。子どもたちが現状に満足し、安定した生活を送っていることがうかがえる一方で、指導が充分に行き届いていなかったのではないか、子どもたちの向上心を育むことが難しかったのではないか、ということを学校は真摯に受け止める必要があると思っています。

注目したいのは、「進んで読書をしていますか」「家庭で宿題以外の学習に取り組んでいますか」の2項目です。どちらもプラス評価の低い項目であり、「ご家庭で大切にされていること」についても、○印をつけておられたご家庭が全校で4割強の回答率になっていました。他の項目が、低くても5割以上の回答率になっていることから、ご家庭での働きかけが弱い部分については、子どもの実現度も低くなっていることが読み取れます。ただ、読書に関しては学校での朝読書はきちんとできている児童がほとんどで、100冊マラソンの達成を目指して頑張った児童も多くいます。家庭で読書に取り組むことがあまりできていなかったという捉え方をしていただければと思います。

2020年度から実施される新しい学習指導要領（京都市では2018年度から先行実施）では、「主体的・対話的で深い学び」が重視されています。つまり、学校では基礎基本の学力をつけるだけでなく、それを土台とし、集団での学習を通して発展的な学力を身につけていくことになります。「何を学ぶか」に留まらず、「どのように学ぶのか」「何ができるようになるのか」を見据えて学習を進めていきます。新しい時代に必要となる「生きて働く知識・技能」「どんな状況にも対応できる思考力・判断力・表現力」を身につけていくのです。そのためには、学校だけでなく家庭で基礎基本の学習を繰り返し行うことや、自分の力を伸ばすための自主的な学習は必要不可欠です。保護者の方の働きかけで、子どもは変わります。何とぞ、子どもたちがご家庭でじっくりと学習や読書に取り組めるように、ご支援・ご協力をお願いいたします。

学校運営協議会よりご意見をいただきました

- 宿題以外の家庭学習をしている割合が低いようだが、どんな内容の学習をしているのだろうか。また、塾に通っている割合はつかめないものだろうか。
- 子どもたちが友だち同士で話しているところでは、言葉づかいがきついと感じことがある。特に中、高学年の女子にそういう傾向が見られるようだ。悪気なく言っているのだと思うが、言われた子どもや周りの子どもが傷つくのではないかと思う。
- 読書に関する項目では、それぞれの立場によって評価に開きがある。保護者は家庭での子どもの姿を見て評価しているのだと思うが、実際のところはどうなのだろうか。
- 広沢の子どもは褒められたり、自分がのってきたりすると力を発揮して伸びていくところがある。子どもたちのやる気を上手く引き出していってほしい。